

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書



- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都府京都市】

学校名【松尾小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ Ⅲ ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	5年 3クラス 105人 育成学級児童1名含む
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	児童が車椅子バスケットボールを体験することで、体の不自由な方が自分たちと同じようにスポーツに取り組んでいることをしる。また選手のお話から、体が不自由な中でも前向きに取り組み、自分のやりたいことに対して、努力し続ける姿勢を学ぶ。
5 取組内容	<p>○事前学習</p> <p>車イスバスケットボールの試合動画の視聴を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の車イスとは違うことに気づき、操作しやすい中などの予想を考えていた。 ・障がいがあるにもかかわらず激しいぶつかり合いをしているところをみて、驚いていた。 ・視聴することでイメージを持ちやすく、当日も意欲的に取り組めたと思う。 <p>○当日の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コーチ選手の紹介 ②車イスバスケットの紹介 ③車イスの体験（各クラス3コース×3） ④車イスバスケットの試合



	<p>(3 試合) ⑤選手のお話 ⑥質問 ○事後学習 総合的な学習の時間「共に生きる」の学習につなげた。 体の不自由な方と共に生きるためにはどうしたらいいのかを考えた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で車イスバスケットボールの動画を見たことは、効果的だった。活動への意欲を高められたと思う。 ・実際に全員が体験できることは、良い。1人ひとりが操作の難しさなどの気づきができた。 ・試合を通じて、みんなで盛り上がる事ができた。その中で、難しさや楽しさなど感じる事ができた。 ・選手のお話は、非常に子どもの心を引きつけるものであった。障がいがあっても前向きに生活していくことや今できることを大切にしてほしい等のメッセージは、その後の学習の中でも生きてきた。 ・最後に児童は車イスバスケットボールを体験する前、共に生きるとは、「～してあげる」という考えが多かった。しかし体験を通して、一緒に何かをすることがとても楽しかったと感じた。そこから共に生きるの考えが変わり、「～してあげる」から「一緒に楽しむこと」へと変化していった。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>いろいろな障がいがある人たちとの交流の一環として取り組ませていただいた。車イスバスケットボールの体験は、その導入学習で取り組んだ。その後の学習への意欲にもつながった。ほかに耳の不自由な方などとも交流した。そこから児童が自分の意見を上げられるようにしている。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回はパラリンピック2020があったので児童の関心は特に高かったと思う。しかし、パラリンピックの年に関わらず、体験した児童らは、様々なことを考えられていると思う。(他の年も体験させていただいているので) だから課題というよりも、児童にとってこのような取り組みは非常に貴重な時間であると思う。継続していただくことが児童の成長につながってくると思う。 ・関心が高すぎるため、試合の希望者が多かった。時間の都合上、各クラス10人しか出られなかったため、希望者には出来るだけ体験させてあげたい。 <p>感染症対策について</p>

	感染症対策として、全員が軍手をして活動に取り組んだ。
9来年度以降の 実施予定	本校では、毎年、福祉について学んでいる。車イスバスケットボールの体験やお話を通して、児童の成長に大きくつながると思う。このことから毎年体験できるなら体験したい取り組みだと思う。